

発行責任者：宮城県肢体不自由児者父母の会連合会 会長 永井 一男

〒983-0836 仙台市宮城野区幸町4丁目6-2 (財)宮城県障がい者福祉協会内

電話：022-293-2902 F A X：022-291-1588

ホームページ：<http://miyagikenshiren.web.fc2.com>

障害者虐待を防ごう!!

永井一男

新型コロナウイルスの感染拡大が続き、感染防止のために、日常生活が新しい生活様式に変わりました。不要不急の外出自粛や自宅待機など様々な制約を受け、直接対面でのコミュニケーションが取りづらくなりました。

そのような状況が長く続くことで、強い不安や喜怒哀楽が乏しくなり、疎外感を感じることもあります。そんな背景から「虐待」が増えています。

県のホームページによると、虐待は特定の人や特定の家庭、場所で起きるものではなく、どこでも起き得るもので、本人の気付かないうちに虐待していたり、虐待を受けている人も、虐待を受けている認識がないために、被害を訴えられないことも多いと言います。

障害者虐待防止法には、虐待に気づいた人の通報義務も定めています。気づいたら、ためらわず、各市町村の福祉担当部署に通報しましょう。

[3種類の障害者虐待]

養護者による虐待

障害者の生活の世話をしている家族や

親族の人による虐待

福祉施設従業者による虐待

障害者福祉施設や福祉サービスの事業所の職員による虐待

使用者による虐待

障害者を働かせている事業主などによる虐待

[どんな虐待があるのか?]

身体的虐待

殴る、平手打ち、つねる、縛る、閉じ込める等

性的虐待

性交、裸にする、キスする、わいせつな話をする等

心理的虐待

怒鳴る、ののしる、悪口を言う、無視する、子ども扱いする等

放棄・放任(ネグレクト)

食事を与えない、不潔な職場で働かせる等

経済的虐待

賃金や年金を渡さない、勝手に財産や貯金を使う、必要な金銭を与えない等

コロナ禍に想う

永井一男

2019年12月、中国・武漢で原因不明の肺炎が発生、またたく間に全世界に拡大した。後に新型コロナウイルスによる感染症と判明した。翌20年1月、WHO(世界保健機関)は緊急事態宣言を発令、さらに3月には「パンデミック(世界大流行)」を表明した。

あれから1年、全世界の感染者は1億2,000万人、死者260万人を超える史上最悪の感染症と言われる。

日本国内では、昨年2月3日、横浜港に着岸したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」から下船した乗客の中の感染者から感染拡大し、10日後の13日には国内初の死者が出た。3月には、東京オリンピック・パラリンピックが延期となり、4月には、全国一斉に小・中・高校が臨時休校となるなど、緊急事態宣言が発出された。

当時の国内感染者は1日数百人だったが、昨年夏には1日1,000人を超すなど、数回の波を繰り返し1年が過ぎた。マスク姿はもう日常的になった。どこに行っても手指の消毒液が置かれている。不要不急の外出自粛、飲み会はもちろん会食の制限、生活様式は一変した。そんなコロナ禍での数日を追ってみた。

×月×日 「復活の日」

以前、読んだことのある小松左京の小説「復活の日」を否応なしに思い起こした。

「イギリス陸軍細菌研究所で猛毒の新型ウイルスがスパイにより持ち出される。スパイが乗った小型機は吹雪の中アルプス山中で墜落、ウイルスの入った容器が砕け

散る。春に雪が解け気温が上がるとウイルスは大気中で増殖し、全世界に広まる。世界中に蔓延したウイルスにより、風邪の症状から肺炎や全身マヒなどで突然死亡する。細菌兵器として開発されたウイルスが世界中に蔓延し、人類滅亡を迎えようとする。辛うじて南極に残されたわずかな人たちが生き残り、人類復活を試みる」。

あたかも今日のコロナ禍を予言したような小説である。一日も早いコロナ禍からの「復活の日」が待ち遠しい。

○月○日 「家飲み」いつまで!?

サラリーマン現役の頃は、仕事帰りに同僚などとよく飲み歩いた。退職後は、もっぱら地域の仲間と飲む機会が多くなった。近くにサッポロビール名取工場がある。そんなこともあって、ビールを愛することを口実に「サッポロ名取会」と言うのがある。会員は、名取市内に住む人を中心に約150人位いる。毎月第二水曜日を定例会とし、ビールはもとより、日本酒からワインなど飲み放題、料理は月代わりで料理長の特別メニューだ。飲み屋の女将さんなど女性も結構多い。私も会員の一人で、いつも楽しみにしている。

私の住んでいる増田西地区を中心にした「一八会」と言う会がある。会員は38人、主に現役を退いた人たちで年齢に制限はなく、最高齢者は今年92歳になる。「健康増進と親睦・融和を図り、地域の発展に寄与すること」を目的にした会で、健康増進のためのパークゴルフや地域活動として

「花いっぱい運動」など実施している。毎月18日に「定例会」を開き、一杯飲みながら懇親を深める。会の名称も定例会の18に由来する。

このほか、気の合った連合町内会の役員経験者で、「OB会」と称し月一回の定例会をやっている。何のことはない飲み会である。

また、名取市の行政区長をやっている関係で、歓送迎会や忘・新年会等節目の親睦会もある。なんやかんや理屈をつけてのプライベート飲み会も含めると、週一回は外で飲んでいる。

それが昨年春以降、新型コロナウイルス感染拡大によって、すべて中止になってしまった。もっぱら「家飲み」にかわった。毎日同じ家内の顔を見ながらの「飲み会」はもうたくさんだ。早くワイワイ言いながら多くの仲間と飲みたい。時に下手な歌でも大声で歌いたいと思う。

×月×日 新型コロナと花粉症

今年も花粉症のシーズンがやってきた。若いころにはそんな症状はなかったのに。数年前から3月に入ると鼻がムズムズし、クシャミがひっきりなしに出る。特に最近では鼻づまりがひどく、夜眠れないのがつら

い。新型コロナウイルス感染症もクシャミや鼻づまりなど症状は同じらしい。そんなもんで周りの目が気になる。「自粛警察」「コロナ警察」と言われる者から、取り締まりを受けたり攻撃されたりしないか心配だ。

○月○日 暗闇に一筋の光

プロ野球東北楽天へ8年ぶりに田中将大投手が帰ってきた。東日本大震災から10年となる節目の大エース復帰である。大震災から2年後の2013年に東北楽天が巨人を倒し、日本一に輝いた時のエース、田中投手だ。

楽天球団が田中投手のファンクラブ「マ一君クラブ」を設立、入会受付を行ったところ、4時間で定員1,000人に達したという。会費は背番号18にちなんで年間18,000円。10人限定の年会費180万円VIPコースは、わずか14分で売り切れたというから驚きである。本拠地宮城県にもたらす経済効果は、年間で約57億円だそうだ。

8年前は田中投手の活躍で、東日本大震災の重苦しい空気を一変させてくれた。今年も日本一になって、コロナ禍を吹き飛ばしてほしい。大いに期待したい。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため宮城県肢連がおかれた状況

令和2年1月中旬頃から新型コロナウイルス感染のニュースが始まり（テレビでは1日中このニュース一色で、それ以来全国と東京の感染者数が発表されました）、2月に入ると、感染拡大防止の為にマスク

着用が当たり前になり、薬局やスーパー、コンビニからマスク、除菌剤等が一時店頭から消え、入荷待ちの状態になり、おまけにティッシュペーパーまで品薄になり、買うのにも個数が制限されて危機感を覚え

ました。

密閉（換気が悪い）、密集（多数が集まる）、密接（間近での会話）を避ける《3密》と、不要不急の外出は控えて。となりもちろん集会等も自粛の方向になりました。3月には小、中学校はもちろんのこと高校、大学も休校となり卒業式、入学式も簡素化、延期とならざるをえませんでした。緊急事態宣言が発表され、様々なことが中止となり、家の外に出るのもままならず、またたく間に世界中に感染拡大して「東京オリンピック、パラリンピック」が延期になるなんて誰も予想出来なかったと思います。

東北連絡協議会の開催も通常2月～3月頃に東北大会の開催県で開催していましたが、急きょ秋田県が当番になり準備を始めようとしたところに、コロナ感染拡大のニュースが入りこれも中止になりました。

県肢連役員会で通常総会に向けての令和元年度事業報告、収支決算、次年度の事業計画等を提案しましたが、従来通りの集まったの総会ではなく書面による決議とした方が良くとなり、第44回通常総会の議案は書面による決議で承認されました。

仙台地区、東部地区、仙北地区でも総会は書面による決議を行いました。

宮城県障害者福祉センターでは6月末まで全室（会議室等）使用禁止となり、その後はソーシャルディスタンスで大会議室でも最大30人までとなり、利用者は玄関入り口で体温を計り、住所、氏名を記入する用紙が置かれました。センターの職員方は、アルコールを片手に館内を回って手すりやドアノブ等を拭き取りしていますし、事務所のある宮城県障がい者福祉協会でも体温と体調を記入する用紙が配られ

チェックしています。

旧館の和室だった部屋はミーティングルームとなり、畳敷きを無くしバリアフリーの部屋に改築され、椅子とテーブルが設置されました。広さを見ると8人は余裕で入れそうですが、ソーシャルディスタンスで入室可能は5～6人程度。飲食を伴う場合は上限4人だそうです。もちろん使用後はイス、テーブルはアルコールで拭き取ります。（この部屋の改築は今回の件の前から実施計画がありました）

全肢連、東北肢連関係の大会・会議はほとんど中止。全国大会は9月に宮城県での開催予定でしたが、これも中止になり大会プログラムだけ送られてきました。3年度は9月に東京で開催予定です。指導者育成セミナーは、宮城県肢連が当番でしたので、7月開催の予定で前年から茂庭荘を予約し、準備万端のはずでした。終息するどころか、宮城県内でも徐々に感染者が増えていき全肢連と検討して中止としました。

全肢連でも時差出勤、テレワークでの体制になり、電話をかけると折返して担当者から連絡が来ました。

昨年度（令和元年）は台風19号被害のため安全に考慮して急きょ中止にした『さわやかレクリエーション・キャンプ』今年こそは！！と計画していましたが、移動手段、団体での見学、食事処の確保など多くの問題が発生し、これをクリアするのはとても困難になり今年度も中止としました。全肢連ではこんな環境でも娯楽は必要だとして、実施期間も3月末までに延長になりましたが、寒くなると今度は「インフルエンザ」の心配も出てくるので、会員の健康を最優先に考えて止む無く中止にしました。2年も続けて中止となったので、令和3年度こそは楽しくレクリエーション

をしたいものです。

役員会、三役会議の開催も通常では2ヶ月、若しくは適宜開催予定でしたが、事業も次々と中止になったことや、極力顔を合わせないようにと当分の間、見合わせることにしたので役員の方々ともお会いする機会がありませんでした。

世間の自粛に伴い、宮城県肢連の収入源でもあるコカ・コーラの自動販売機の売り上げが激減してしまいました。公共施設等が休業したために全国的な傾向でもあり、全肢連から自動販売機の設置に力を入れて欲しいと通達がありました。普段でも大変なのにこの時期にセールスはとても無理なことですし、コカ・コーラボトラーズ株式会社でもテレワークになっていて、仮に設置が決まっても納品まで数ヶ月位かか

るとエリア担当者の佐藤さんから伺いました。

みやぎアピール実行委員会を通じてハートフル福祉募金様から、フェイスガード、マスクを頂戴し、仙台自立の家と事務所の大家さんでもある障がい者福祉協会にそれぞれ配布（お分け）しました。

世界中を脅かしているコロナウイルスはいつ終息するのでしょうか？？東京オリンピックは開催出来るのでしょうか？ワクチンの開発が進み、既に医療関係者から接種を開始しているので、全国民に接種出来るのはいつになるのか待ち遠しいです。早くマスクの無い普通の生活に戻って、自粛から解放されたいですね。

(R3, 3月 下山恵子記)

令和4年度心身障害児者に関する厚労省への要望

全肢連では、例年、各県肢連から心身障害児者に関する要望を取りまとめ、関係省庁に対し提出しています。

このほど、令和4年度の要望事項についての依頼があり、宮城県肢連から次の2件について提出しました。

①障害年金の大幅引き上げ

厚生労働省の障害年金受給者実態調査(2019年)で、全人口の保護率(18年度)は1.66%だったが、障害年金受給者は7.6%と全人口に比べ4.6倍に上がることが分かりました。前回調査(14年)に比べると、全人口の保護率は微減していますが、障害年金受給者は2割近く上昇しています。このことは、障害者が年金だけでは生活できないこ

との表れでもあります。したがって、生活保護を受けなくても生活できるだけの障害年金の引き上げを要望します。

②生活保護申請時の「扶養照会」の廃止

生活保護法では「親族の扶養は保護に優先する」と規定していることから、生活保護申請に当たっては、福祉事務所が申請者の配偶者や親子、兄弟などの親族に援助の可否を確認する「扶養照会」を行います。そのため、申請をためらう原因にもなっています。申請の障壁とも言うべき「扶養照会」の廃止を要望します。

(永井一男記)

単位会だより

仙台地区

会長 佐藤征機

令和2年5月30日に通常総会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年5月16日に通常総会を中止することに決めました。会員各位にはお知らせの通知を送付いたしました。自立の家の感謝祭についても同様に中止となりました。

宮肢連関係の行事についても、全国大会、東北大会、指導者育成セミナー、さわやかレクリエーション等すべて中止となりました。

令和3年4月5日に新型コロナウイルスの感染拡大防止のため緊急事態宣言に準じた対策が可能となる「まん延防止等重点措置」の適用が大阪、兵庫、宮城3府県で始まりました。新型コロナウイルスの感染拡大は、予断を許さない状況が継続しています。今年度もコロナウイルスが終息しなければ一切の行事が出来なくなると思われます。

会員の皆様!!くれぐれも身体を大切に、1日も早くコロナウイルスの終息を願っております。

東部地区

会長 赤間邦夫

令和2年度第32回東部地区総会を令和2年7月31日(金)多賀城市で開催しました。新型コロナウイルス対策で役員会で総会資料を確認して「書面決議」とさせていただきます。

役員会終了後に、会員の現状について情報交換会を行いました。

会員皆さんの声は、障害のある子の「親亡き後」の不安と自活できる施設とグループホームの要望でした。親や家族の介護での悩み、障害者自身の高齢化で不安等多くの話がありました。皆さんと交流する事が出来て良かったとお話していました。

東部地区は交流を大事に、会員の皆さんと一緒に支え合いながら活動を続けていきます。

新型コロナウイルス感染拡大が終息しワクチン接種で普段の生活に早くもどりたいです。

今後とも会員皆様のご支援とご協力を宜しくお願いします。

仙北地区

会長 川名敏也

昨年はコロナウイルス感染拡大のため福祉活動ができませんでした。

コロナ渦で人と人とのつながりの大切さを実感いたしました。

障害者や家族が孤立や孤独に陥らないように日頃から考えておく必要がある

と感じました。仙北地区の会員方々の御自宅は広範であり各市町村の障害者

福祉施策も異なり会の活動が年々難しくなっています。

今後は、会員の方々の子供さんが利用している福祉施設との連携や支援を行うことを会の主たる目的として活動を行って行きたいと思っております。

これからもよろしくお願いいたします。

特別寄稿：静かな春に思うこと

宮城県指定管理施設

宮城県障害者福祉センター

施設長 佐々木 明子

宮城県障害者福祉センターは今年、開所38年目の春を迎えています。観測史上、最速での開花となった今年の桜。当センター界限の見事な桜はコロナ禍にいることを忘れさせてくれるほどきれいに咲き誇っています。本来であれば、新しい季節の始まりには多くの人が集う場であるセンターも昨年に引き続き、緊急事態宣言にともない長期の臨時休館となり、2度目の静かな春となりました。

父母の会の皆様には日頃より役員会や総会の会場として、また、事業活動への参加をとおして様々にご利用いただき心より感謝申し上げます。貸館や主催事業等でいくらかでも皆様のお役に立てただければ幸いなのですが、新型コロナウイルスの出現はその小さな願いも叶えてはくれないのかと思ってしまう。

大学卒業後、福祉センターに入職したのが昭和63年4月。以来、平成・令和と年号が変わり、恐ろしいほど、……あつという間に「あれから30年+ちょっと」の時間が過ぎ、街の様子も社会状況の障害福祉への人々の意識もだいぶ変わりました。

平成初期の頃、電動車イスの操作練習に付き添った際、町のスーパーは入店するまでも段差の連続、狭い通路、和式のみトイレ……今となっては信じられない状況が普通でした。時代が進む中でバリアフリー化への要望も高まり、誰にとっても暮らしやすい街づくりが今もなお、変貌をとげています。福祉制度の面でも総合支援法の下、各種事業所の数はどんどん増え、様々な選択肢の中で必要な「支援」を選びとっていく現代です。当センターもその選



択肢のひとつの社会資源です。

では、求められる役割は……？

福祉センターは貸館だけではなく、出会い（他者との出会い&自分自身の可能性への出会い）と交流の場としてのチャンスを教室やイベントで提供しています。コロナ禍でも、新しいルールで3密対策を十分におこないながら実施しています。「当事者・ご家族向けの研修会」や料理や陶芸、盆点前等の「趣味の教室」や「軽スポーツ教室」、そして「eスポーツ教室」は令和2年度からスタートしました。これらの事業を出前形式でもお届けしています。お電話でぜひ、お問い合わせください。！

当センターを通じて、私もたくさんのご家庭、お父さん方、お母さん方とお会いできました。皆様のお顔を思い浮かべると「慈愛」という言葉が浮かんできます。大変なご苦労や葛藤もあったことでしょうが、苦労話や悩み事を笑いに話に換え、我が子の育ちを支え、ボランティアさんたちには我が息子、娘のように親身になって接し、会員様同士、お互いを励まし合いなが

ら、笑顔で活動されているお姿には頭が下がる思いでした。

「どう生きるか」「誰と生きるか」「何を大切に生きるのか」人生の中での岐路は障がいのあるなしに関係なく、誰にとっても必ず向き合うもの。「どう生きるか？」の局面で当センターが日々の暮らしへの彩りやライフワークとの出会いの一助となって皆さんに寄り添えたらと日々思っています。

このご時世、誰もが言ってしまうひと言「仕方がない・・・」とは思考停止を意味するそうです。これが今、多くの人を感じている閉塞感を生み出しているのかもしれませんが。コロナを正しく恐れながらも、新しい季節を楽しむ気持ちで歩んでみよう!!今感じている不安はエネルギーに換えていこう!!桜の次は新緑の季節。木々の

葉の輝く緑から元気をもらっていこう! そう思う最近です。そして、また、元気にお会いしましょう。



(写真：ネイル教室) ※ソーシャルディスタンスを取り入れて

会員だより

今、想うこと

下山 清子

世界的な流行となった『新型コロナウイルス感染症』により、本人や家族が感染した際の対応は、どうなるだろう?と、とても心配でしたが、宮城県では、介護の必要な人が感染した場合は、介護者と一緒に入れる施設を借り上げてくれる事になり、安心出来ました。

娘がグループホームに入居して、1年が過ぎました。7人の仲間と毎日2名の支援員が入るので楽しく生活しているようです。国の制度改革においては、重度障がいの人や、高齢障がい者への対応として「共生型類型」や平日の日中もグループホームで過ごすことを前提とした「中日サービス支援型グループホーム」などが実現されました。これらの法制度、支援施策は全国各地の親達の要望や意見が取り入れられたものです。娘の入居しているグループホームにも、高

齢の人、重度障がいの人もいます。

コロナ禍が始まって、2度目の桜が咲きました。収束への戦いは続いています、1年前とは違う春。色々な活動も感染が心配なので、娘の通園施設も今までの行事は全部なくなり、楽しみがなくなり淋しい思いをしています。

早く今まで通りになる事を願います。

第二の通所施設で思う事

瀧澤 琴子

仙台自立の家開所以来、22年間お世話になった自立の家を昨年の8月で退所しました。昨年の9月から家の近くの《プチクレア》に通所しております。プチクレアは、同じ建物の中に就労継続支援施設A型とB型があります。

A型は、主にパン作りや、店での販売を

しており配達もしている様です。娘は、B型の《青鳥》で、アメニティーセットなどの作業をしており、週に1回金曜日は、店の一角でレストランのお惣菜を販売しております。これは、自立の家での販売経験が役立っている様です。作業時間は、午前10時から午後3時までなので、娘には身体的に合っている様です。

利用者さんは、主に精神の方が多いのですが、いろいろな方と接して社会勉強になればと思っております。今の所は、休まないで通所しているので感心しております。プチクレアの指導員さん、仲間にも恵まれ感謝しております。

障がいがあっても何か一つ好きな物を見つけ、自分らしく住み慣れた所で安心して生活出来る様にとする此の頃です。

プチクレア青い鳥に通所して

瀧澤 麻衣子

将来の事を考えて、昨年7月から1ヶ月、私の家の近くにある《プチクレア青い鳥》で体験通所をしました。そして昨年8月31日に22年間慣れ親しんだ『仙台自立の家』を退所して、9月から家の近くにある《プチクレア青い鳥》に通所しています。

最初は慣れるのに大変でしたが、青い鳥のスタッフさん達が、私に声をかけてくれたおかげでだんだん慣れてきました。仕事の時間は、午前10時から午後3時までです。朝がゆっくりなので私に合っていると思います。仕事の内容は、ホテルなどに備え付けられているアメニティーセットの袋詰めや、神社に納めるおみくじや、持ち運びが出来る消毒液の教え方をしています。

今は、コロナの影響で仕事が無い時もあり、そんな時は自由時間で私は編み物をしています。1週間に1度は、プチクレアの店で川崎のたらふく屋さんのお惣菜を販売しています。青い鳥の人数は10人でにぎやかにしています。

少しずつ慣れてきたので、《プチクレア

青い鳥》で頑張っていきたいと思います。

コロナから1年

鈴木 清志

コロナから1年、最初の頃はテレビを見るとニュースや情報番組で海外からの情報がすごいことになり、毎日新しい情報が流れてくる。

日本でも同じく感染が広がり検温や手洗いと消毒、マスクいろいろ感染対策をしています。

自立の家でも検温や手洗いと消毒、マスク、昼食の時にはテーブルに衝立をつけて食事をしています。

仕事はコロナウイルスで時間が少なく、人数も少なく作業が大変でした。販売はウイルスの感染拡大防止のために中止。外部販売も中止になりました。

現在の状況は施設に通って通常作業に戻り、販売も出来るようになりました。

早くコロナウイルスが治まると良いです。

みやぎアピール大行動に参加して

入間川 節子

みやぎアピール大行動が、令和2年11月1日に行われました。今回の会場は、仙台メディアテークでなく、仙台エルパークの会議室で大集会が開かれ、コロナ禍の中でしたので、参加者も例年より若干少なかったようです。壇上のリレートークでは、コロナ禍、医療機関に関する困惑や体験などの発言がありました。メディアテークと違って会場が狭かったことや聴覚障がい者の参加が多かったので、受付では戸惑ったところもありました。

アピールに関心を持って下さる皆さん。コロナウイルスは見えない敵です。お互い体に気をつけながら、今年もご協力お願いいたします。

会長日誌

仙台市肢体不自由児者父母の会

会長 佐藤征機

今年も役員さん
いろいろとご協力を
いただきましてあり
がとうございました。

令和2年5月30
日に通常総会を開催
する予定でしたが、新型コロナウイルス感
染拡大防止のため、令和2年5月16日に
通常総会を中止することに決めました。会
員各位には、お知らせの通知を送付し書面
決議といたしました。自立の家の感謝祭に
ついては同様に中止となりました。

恒例の仙台市健康福祉部障害福祉課、支
援課との打ち合わせについては令和3年
度には是非実行したいと思えます。

令和3年4月5日に新型コロナウイルス
の感染拡大防止のため、緊急事態宣言に
準じた対策が可能となる「まん延防止等重
点措置」の適用が大阪、兵庫、宮城の3府
県で始まりました。新型コロナウイルスの
感染拡大は予断を許さない状況にありま
すので、会員の皆様もお身体を大切に
して、1日も早いコロナウイルスの終息を願
い県肢連の行事でお会いしましょう。



宮城県肢体不自由児者父母の会連合会

会長 永井一男

中国・武漢由 来のコロナウ イルス発生

2019年12月、
中国・湖北省武
漢で原因不明の
肺炎が発生、後
に新型コロナウイルス感染症と判明しま
した。2020年1月、WHO(世界保健機関)は緊
急事態宣言を発令し、3月には「パンデミ
ック」世界大流行を表明しました。そして
1年になる今年3月現在では、世界の感染者
は、1億2,000万人、死者は260万人を超え、
最悪の感染症とされています。

新型コロナ日本国内に上陸

日本国内には2020年2月、横浜港に着岸
したクルーズ船「ダイヤモンド・プリン
ス号」の乗客らによって、感染者が拡大しま
した。3月には、東京オリンピック・パラ
リンピックが延期となり、4月には、全国
一斉に小・中・高校が臨時休校となるなど
緊急事態宣言が発出されました。当時国内
の感染者は、1日数百人で、一時下火にな
りましたが、夏には1日1,000人を超す第2
波となりました。さらに11月には第3波が
到来しました。

宮城県にまん延防止措置

宮城県内で初感染者が確認されたのは
昨年2月29日でした。県内においても幾つ
かの波を超えて、今年3月17日には1日の感
染者が100人を超え、翌18日に初めて独自
の緊急事態宣言が出されました。同21日
には125人、同24日には171人、同31日には
県内最多となる200人と急激に拡大し、4
月5日から5月5日までの1ヶ月間を全国初とな

る「まん延防止等重点措置」が適用されました。

収束はワクチン頼み

このような中、世界各国でワクチンの研究開発が進み、昨年12月には英国、米国でワクチン接種が開始されました。日本でも今年2月17日から医師や看護師ら医療関係者への優先接種が始まりました。高齢者などは4月から接種開始となりそうです。接種による副反応も気になりますが、ワクチン効果が出て、1日も早い収束を期待したいものです。

変異株の脅威

一方で、新型コロナウイルスの変異株が昨年12月25日に国内で初めて報告されて以降、全国に拡大しています。変異株は、従来型を大きく上回る感染力を持つと言われます。急速に拡大するリスクが懸念されています。また、ワクチン効果も未知数と言われ、まだまだ気を緩められない状況が続きそうです。

東日本大震災から10年

2011年3月11日に発災した東日本大震災から10年が経過しました。新聞やテレビなどで10年を振り返る様々な特集が組まれました。コロナ禍の拡大防止対策を取りながら、各地で慰霊祭や記念イベントが開催されました。

大震災から10年を迎える直前の2021年2月13日深夜には、福島県沖を震源とする、宮城、福島、岩手で震度6強の地震がありました。床に就いたばかりの11時8分でした。長く激しい揺れに10年前の震災が頭をよぎり「またか」と叫びました。3月20日にも宮城県沖を震源とする震度5強の地震がありました。いずれも10年前の大地震の余震で、さらに強い余震が今後起きる可能性もあるそうなので心配です。

10年間の主な自然災害

この10年を振り返ると、自然災害は毎年発生しています。主なものは次の通りです。

2011年 3月 東日本大震災

死者15,900人、行方不明者2,525人

2014年 8月 広島市東部豪雨

死者 77人

2014年 9月 長野県御嶽山噴火

死者 58人、行方不明者5人

2015年 9月 宮城県豪雨

死者 2人

2016年 4月 熊本地震

死者273人

2016年 8月 台風10号、岩手県岩泉町

死者 26人

2017年 7月 九州北部豪雨

死者 42人

2018年 6月 大阪北部地震

死者 6人

2018年 7月 西日本豪雨

死者 263人

2018年 9月 北海道胆振地震

死者 43人

2019年10月 台風19号、宮城、福島、岩手

死者 60人

2020年 7月 九州中心に豪雨

死者 84人

2021年 2月 福島県沖地震

死者 1人

「災害弱者」の犠牲多発

災害は地震ばかりではありません。豪雨や台風などによる浸水、洪水、がけ崩れなど様々です。いずれの災害も避難のタイミングが肝心ですが、18年の西日本豪雨や19年の台風19号、20年の7月豪雨などでは、死者不明者の6～8割を高齢者が占めたと言います。

要支援者の「個別計画」義務化

このように、自力避難が困難な高齢者や障害者ら「災害弱者」の逃げ遅れが後を絶ちません。避難に支援が必要な高齢者や障害者については、各市町村が名簿を作成し

ますが、1人1人の避難方法は、名簿を提供された町内会等が「作成することが望ましい」とされ、義務ではありませんでした。これを、令和3年度に災害対策基本法の一部を改正し、1人1人の避難方法を事前に決めておく「個別計画」も各市町村の努力義務とする予定です。

DWATによる支援

また、避難を強いられた高齢者や障害者を支援する「災害派遣福祉チーム(DWAT)」が全国に普及し、東北6県は全て設置済みです。DWATは都道府県の研修を受けた介護福祉士や保育士などの専門職で構成され、災害時に都道府県から参加要請されます。5人程度のチームに分かれ、避難所へ派遣されて相談業務や食事、トイレ介護などを行います。

要支援者がなすべきこと

支援を受ける側としては、まず自力で対応が難しいことを周囲に知ってもらうことが必要です。家族と一緒に地域の防災訓練に参加し、不安や悩みなど相談する機会にしましょう。災害時の支えあいは、日頃の交流の延長線上にあります。住民が助け合うことで、地域により安心感が高まります。地域で暮らす人たちが、共に助かる方法を改めて話し合っておきたいものです。

県肢連事業活動の大半中止

令和2年度の宮城県肢連は、第44回通常総会を新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、書面による決議としました。

その後もコロナ禍の収束はおろか数回の波で拡大を続け、予定された事業・活動の中止を余儀なくされました。

第53回全肢連全国大会は、宮崎県宮崎市で開催予定でしたが中止となりました。宮崎県肢連は、大会に向けて1年も前から準備していただけに、無念さはいかほどか。関係者の労に敬意を表したいと思います。

第40回東北肢連東北大会は、青森県肢連

の担当でしたが、野宮会長の急死に伴い辞退を余儀なくされ、秋田県肢連の担当となりました。東北大会もコロナ禍の影響を受け中止となりました。

東北ブロック地域指導者育成セミナーは、宮城県での開催でした。開催日を決め、いつもの通り「茂庭荘」を予約するなど準備していましたが、参加者は各県から集まることを考慮し中止としました。

さわやかレクリエーションは、会員の最も楽しみにしている事業の一つですが、3蜜を避けるためやむなく実施を見送りました。

このほかにも、恒例の仙台自立の家の「感謝祭」なども中止となったほか、役員会もほとんど開催できませんでした。

いつまで続くコロナ禍

新型コロナウイルス感染症は、一向に収まる気配が見えません。むしろ拡大の一方です。宮城県内での感染者は、3月17日に1日100人を超えて以来、急激に拡大し、3月24日には最多の171人(仙台市131人)となりました。

コロナ禍を収める唯一の頼りはワクチンですが、医療関係者など一部の人に接種が始まったばかりです。高齢者から一般の人へと順次接種する計画のようですが、ワクチンの供給見通しなど不透明なことも多く、楽観できない状況といえます。

新型コロナの変異株も拡大しています。予定されているワクチンが、変異株にどれ程の効果があるのかも解明されていません。

このような現時点での状況を見ると、コロナ禍は当分続くものと覚悟せざるを得ません。

皆さん!!コロナ感染症には十分注意してください。そして、またいつか元気な笑顔でお会いしましょう。

(この原稿は3月25日に記したものです。人数など状況は変化しています。ご了承ください)